

聖マリアンナ医科大学(前期) 数学

2024年 2月8日実施

1

以下の(1)~(3)の ~ に当てはまる適切な数を解答用紙の所定の欄に記入せよ。

- (1) 次の表は6人の生徒A~Fの数学、物理の小テストの得点と6人の平均点であるが、Dの数学の得点のみ表示されていない。

	A	B	C	D	E	F	平均
数学	8	8	6		8	10	7
物理	5	7	4	4	4	6	5

Dの数学の得点は であり、この6人の数学の得点の分散を既約分数で答えると である。また、

この6人の数学と物理の得点の相関係数は $\frac{\text{ウ}}{38}$ である。

- (2) 3次方程式 $x^3 + \sqrt[3]{4}x + 4 = 0$ の3つの解を α, β, γ とするとき、

$$\alpha + \beta + \gamma = \text{エ}$$

$$(10\sqrt[3]{2} - \alpha)(10\sqrt[3]{2} - \beta)(10\sqrt[3]{2} - \gamma) = \text{オ}$$

である。

- (3) a を実数とし、 $(x - a)^2$ で割り切れる3次多項式 $f(x)$ を考える。 $f(x)$ の係数がすべて実数で、 x^3 の項の係数が1、 $f(3) = 3$ 、 $f'(3) = 1$ であるとき、 a の値を求めると $a = \text{カ}$ である。

解答

- (1) 生徒Dの得点を d とすると、 $\frac{8 \times 3 + 6 + d + 10}{6} = 7$ より、 $d = 2$ であり、6人の数学の得点の分散 S_m^2 は

$$\begin{aligned} S_m^2 &= \frac{(8-7)^2 \times 3 + (6-7)^2 + (2-7)^2 + (10-7)^2}{6} \\ &= \frac{19}{3} \end{aligned}$$

また、6人の物理の得点の分散 S_p^2 が

$$\begin{aligned} S_p^2 &= \frac{(5-5)^2 + (7-5)^2 + (4-5)^2 \times 3 + (6-5)^2}{6} \\ &= \frac{4}{3} \end{aligned}$$

6 人の数学と物理の得点の共分散 S_{mp} が

$$S_{mp} = \frac{(8-7)(5-5) + (8-7)(7-5) + (6-7)(4-5) + (2-7)(4-5) + (8-7)(4-5) + (10-7)(6-5)}{6}$$

$$= \frac{5}{3}$$

であることより、6 人の数学と物理の得点の相関係数 r_{mp} は

$$r_{mp} = \frac{S_{mp}}{S_m S_p}$$

$$= \frac{\frac{5}{3}}{\sqrt{\frac{19}{3}} \sqrt{\frac{4}{3}}} = \frac{5\sqrt{19}}{38}$$

(2) 解と係数の関係より、

$$\alpha + \beta + \gamma = 0$$

であり、また $x^3 + \sqrt[3]{4}x + 4 = (x - \alpha)(x - \beta)(x - \gamma)$ に $x = 10\sqrt[3]{2}$ を代入して

$$(10\sqrt[3]{2} - \alpha)(10\sqrt[3]{2} - \beta)(10\sqrt[3]{2} - \gamma) = (10\sqrt[3]{2})^3 + \sqrt[3]{4} \cdot 10\sqrt[3]{2} + 4$$

$$= 2000 + 20 + 4 = \mathbf{2024}$$

(3) x^3 の項の係数が 1、各項の係数が実数であることより $f(x) = (x - a)^2(x - b)$ (b は実数) とおける。

このとき、 $f'(x) = 2(x - a)(x - b) + (x - a)^2$ であるので、 $f(3) = 3$ 、 $f'(3) = 1$ より

$$(3 - a)^2(3 - b) = 3, \quad 2(3 - a)(3 - b) + (3 - a)^2 = 1$$

$3 - a = A$ ($\neq 0$) とおくと

$$A^2(3 - b) = 3, \quad 2A(3 - b) + A^2 = 1$$

第 1 式より $3 - b = \frac{3}{A^2}$ なので、これを第 2 式に代入して

$$2A \cdot \frac{3}{A^2} + A^2 = 1$$

$$\iff A^3 - A + 6 = 0$$

$$\iff (A + 2)(A^2 - 2A + 3) = 0$$

A は実数より $A = -2$ であるので $3 - a = -2 \iff a = 5$ である。(このとき、 $b = 3 - \frac{3}{A^2}$ より b は実数である.)

2

3 辺の長さが $AB = 2$, $BC = 3$, $AC = t$ ($1 < t < 5$) である $\triangle ABC$ の辺 AC 上に点 D をとる. また, $\angle ABD = \alpha$, $\angle CBD = \beta$, $\angle ADB = \theta$ とする.

以下の (1)~(3) の キ ~ タ に当てはまる適切な数または式を解答用紙の所定の欄に記入せよ.

(1) $\sin \alpha = \sin \beta$ のとき $AD =$ キ t であり, $2 \sin \alpha = \sin \beta$ のとき $AD =$ ク t である.

(2) $2 \sin \alpha = \sin \beta$ とする. このとき, $\triangle ABD$, $\triangle CBD$ に余弦定理をそれぞれ用いて, $\cos \theta$, $\cos(180^\circ - \theta)$ を BD と t を用いた式で表すと

$$\cos \theta = \frac{16BD^2 + \text{ケ}}{8t BD}$$

$$\cos(180^\circ - \theta) = \frac{16BD^2 + \text{コ}}{24t BD}$$

である.

(3) $2 \sin \alpha = \sin \beta$ とし, $BD = s$ とおく. s を用いて t^2 を表すと $t^2 = \frac{\text{サ}}{3}$ である. また $\cos \alpha$ を s を用いて表すと,

$$\cos \alpha = \frac{16s^2 + \text{シ}}{\text{ス} s}$$

である. $\cos \alpha$ を s の関数と考えて, その最小値を求めると セ である. また, $\cos \alpha$ が最小値をとるときの s , t の値を求めると $s =$ ソ , $t =$ タ である.

解答

(1) $\sin \alpha = \sin \beta$ のとき

$0^\circ < \alpha + \beta < 180^\circ$ であることに注意すると, $\alpha = \beta$ である.

したがって, AD は $\angle ABC$ の二等分線であるから

$$AD : DC = BA : BC = 2 : 3$$

よって, $AD = \frac{2}{5}t$

$2 \sin \alpha = \sin \beta$ のとき

$\triangle BAD$, $\triangle BCD$ において正弦定理より

$$\begin{cases} \frac{AD}{\sin \alpha} = \frac{2}{\sin \theta} \\ \frac{t - AD}{\sin \beta} = \frac{3}{\sin(180^\circ - \theta)} \end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases} \frac{AD}{\sin \alpha} = \frac{2}{\sin \theta} \\ \frac{t - AD}{2 \sin \alpha} = \frac{3}{\sin \theta} \end{cases}$$

これらから $\sin \theta$ を消去して

$$\frac{AD}{2 \sin \alpha} = \frac{t - AD}{6 \sin \alpha}$$

$$\therefore AD = \frac{1}{4}t \dots\dots \text{①}$$

(2) ①のもとで, $\triangle BAD$, $\triangle BCD$ において余弦定理より

$$\cos \theta = \frac{BD^2 + \left(\frac{1}{4}t\right)^2 - 2^2}{2 \cdot BD \cdot \frac{1}{4}t} = \frac{16BD^2 + t^2 - 64}{8tBD}$$

$$\cos(180^\circ - \theta) = \frac{BD^2 + \left(\frac{3}{4}t\right)^2 - 3^2}{2 \cdot BD \cdot \frac{3}{4}t} = \frac{16BD^2 + 9t^2 - 144}{24tBD}$$

(3) $\cos(180^\circ - \theta) = -\cos \theta$ より

$$\frac{16BD^2 + 9t^2 - 144}{24tBD} = -\frac{16BD^2 + t^2 - 64}{8tBD}$$

$$\frac{16s^2 + 9t^2 - 144}{3st} = -\frac{16s^2 + t^2 - 64}{st}$$

$$\therefore t^2 = \frac{-16s^2 + 84}{3} \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

さらに, $\triangle DAB$ において余弦定理より

$$\cos \alpha = \frac{s^2 + 2^2 - \left(\frac{1}{4}t\right)^2}{2 \cdot s \cdot 2}$$

$$= \frac{s^2 + 4 - \frac{1}{16} \cdot \frac{-16s^2 + 84}{3}}{4s} = \frac{16s^2 + 27}{48s} \quad (\because \textcircled{2})$$

したがって,

$$\cos \alpha = \frac{1}{48} \left(16s + \frac{27}{s} \right)$$

であり, $s > 0$ であることに注意して, 相加平均・相乗平均の関係の不等式より

$$\frac{1}{48} \left(16s + \frac{27}{s} \right) \geq \frac{1}{48} \cdot 2\sqrt{16s \cdot \frac{27}{s}}$$

$$\therefore \cos \alpha \geq \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\left(\begin{array}{l} \text{等号成立は, } 16s = \frac{27}{s} \text{ のとき} \\ \text{すなわち, } s = \frac{3\sqrt{3}}{4} \text{ のときに成立する} \end{array} \right)$$

したがって, $\cos \alpha$ の最小値は $\frac{\sqrt{3}}{2}$, それは $s = \frac{3\sqrt{3}}{4}$, $t = \sqrt{19}$ のとき.

3

a を正の実数, e を自然対数の底, $f(x) = \frac{e^x + e^{-x}}{2}$ とし, 座標平面上の曲線 $y = f(x)$ ($0 \leq x \leq a$) を C_a で表す. C_a の長さは

$$L(a) = \int_0^a \sqrt{1 + \{f'(x)\}^2} dx$$

である.

また $g(x) = \frac{e^x - e^{-x}}{2}$ とおくと,

$$f'(x) = g(x), \quad g'(x) = f(x), \quad \{f(x)\}^2 - \{g(x)\}^2 = 1$$

が成り立つ. 以下の (1), (2), (4) の チ ト に当てはまる適切な数, および (3), (4) に対する解答を解答用紙の所定の欄に記入せよ.

(1) $\frac{g(a)}{L(a)}$ の値は チ である.

(2) $L(a) = 1$ のとき $f(a)$ の値と a の値を求めると $f(a) =$ ツ , $a =$ テ である.

(3) $L(a) = 1$ のとき C_a 上に点 $P_k(x_k, f(x_k))$ ($k = 0, 1, 2, \dots, n$) をとり, C_a の長さを n 等分する. ただし n は正の整数であり, $0 = x_0 < x_1 < x_2 < \dots < x_n = a$ とする. このとき,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n f(x_k) = \int_0^1 \sqrt{1+t^2} dt$$

となることを示せ.

(4) $t = g(u)$ という置換を用いて, 定積分 $\int_0^1 \sqrt{1+t^2} dt$ を計算すると, その値は ト である. また解答用紙の所定の欄に ト の計算過程を記せ.

解答

(1) まず,

$$\begin{cases} f'(x) = g(x) & \dots\dots\dots \textcircled{1} \\ g'(x) = f(x) & \dots\dots\dots \textcircled{2} \\ \{f(x)\}^2 - \{g(x)\}^2 = 1 & \dots\dots\dots \textcircled{3} \end{cases}$$

に注意しておく.

$$\begin{aligned}
 L(a) &= \int_0^a \sqrt{1 + \{f'(x)\}^2} dx \\
 &= \int_0^a \sqrt{1 + \{g(x)\}^2} dx \quad (\because \textcircled{1}) \\
 &= \int_0^a \sqrt{\{f(x)\}^2} dx \quad (\because \textcircled{3}) \\
 &= \int_0^a |f(x)| dx \\
 &= \int_0^a f(x) dx \\
 &= [g(x)]_0^a \quad (\because \textcircled{2}) \\
 &= g(a) - g(0) \\
 &= g(a) \quad (\because g(0) = 0)
 \end{aligned}$$

であるから,

$$\frac{g(a)}{L(a)} = 1$$

である.

(2) (1) より, $g(a) = L(a)$ あるから $L(a) = 1$ のとき

$$\begin{aligned}
 g(a) &= 1 \\
 \frac{e^a - e^{-a}}{2} &= 1
 \end{aligned}$$

ここで, $e^a = X$ とおくと

$$\begin{aligned}
 \frac{1}{2} \left(X - \frac{1}{X} \right) &= 1 \\
 X^2 - 2X - 1 &= 0 \\
 X &= 1 + \sqrt{2} \quad (\because X = e^a > 0) \\
 e^a &= 1 + \sqrt{2} \\
 \therefore a &= \log(1 + \sqrt{2})
 \end{aligned}$$

また,

$$\begin{aligned}
 f(a) &= \frac{e^a + e^{-a}}{2} \\
 &= \frac{1}{2} \left(1 + \sqrt{2} + \frac{1}{1 + \sqrt{2}} \right) = \sqrt{2}
 \end{aligned}$$

(3) $L(a) = 1$ と, 点 P_k ($k = 0, 1, 2, \dots, n$) が C_a の長さを n 等分する条件から

$$L(x_k) = g(x_k) = \int_0^{x_k} \sqrt{1 + \{f'(x)\}^2} dx = \frac{k}{n} \dots\dots \textcircled{4}$$

このとき

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n f(x_k) &= \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sqrt{1 + \{f'(x_k)\}^2} \\ &= \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sqrt{1 + \{g(x_k)\}^2} \\ &= \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sqrt{1 + \left(\frac{k}{n}\right)^2} \quad (\because \textcircled{4}) \\ &= \int_0^1 \sqrt{1 + t^2} dt \quad (\because \text{区分求積法}) \end{aligned}$$

となるから示された.

(4) $t = g(u)$ とおくと,

$$\begin{aligned} \frac{dt}{du} &= g'(u) = f(u) \\ \therefore dt &= f(u)du \end{aligned}$$

であり

t	$0 \rightarrow 1$
u	$0 \rightarrow \log(1 + \sqrt{2})$

であるから,

$$\begin{aligned} \int_0^1 \sqrt{1 + t^2} dt &= \int_0^{\log(1+\sqrt{2})} \sqrt{1 + \{g(u)\}^2} \cdot f(u) du \\ &= \int_0^{\log(1+\sqrt{2})} f(u) \cdot f(u) du \\ &= \int_0^{\log(1+\sqrt{2})} \left(\frac{e^u + e^{-u}}{2}\right)^2 du \\ &= \frac{1}{4} \int_0^{\log(1+\sqrt{2})} (e^{2u} + 2 + e^{-2u}) du \\ &= \frac{1}{4} \left[\frac{e^{2u}}{2} + 2u - \frac{e^{-2u}}{2} \right]_0^{\log(1+\sqrt{2})} \\ &= \frac{1}{8} \left\{ (3 + 2\sqrt{2}) - 4\log(1 + \sqrt{2}) - (3 - 2\sqrt{2}) \right\} \\ &= \frac{1}{2} \{ \sqrt{2} + \log(1 + \sqrt{2}) \} \end{aligned}$$

注釈

$$\int \sqrt{1 + x^2} dx = \frac{1}{2} \left\{ x\sqrt{1 + x^2} + \log(x + \sqrt{1 + x^2}) \right\} + C \quad (C \text{ は積分定数})$$

という公式があるが、置換の指定があるので、検算に用いたい。

4

以下の (1)～(3) に対する解答を解答用紙の所定の欄に記入せよ.

(1) 次の , に当てはまる数を答えよ.

$4n + 1$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) で表される自然数を考える. この形の数のうち, 小さい方から 5 番目の素数は で, 小さい方から 5 番目の合成数は である.

(2) a を自然数とする. a を用いて, 次の文中にある b を表せ.

$p_n = an + 1$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) とする. どのような自然数 m に対しても, $k = bm + 1$ とおくと $p_k = b(am + 1)$ となる.

ここで $b, am + 1$ はともに 1 より大きい自然数なので, p_k は合成数である.

(3) c, d, e を自然数として $q_n = cn^2 + dn + e$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) とする. c, d, e がどのような自然数であっても, q_n で表される数の中には合成数となるものがあることを示せ.

解答

(1) $4n + 1$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) で表される自然数は小さい順に

5, 9, 13, 17, 21, 25, 29, 33, 37, 41, 45, 49, 53, 57, \dots

よって, 小さい方から 5 番目の素数は **37** で, 小さい方から 5 番目の合成数は **45** である.

(2)

$$\begin{aligned} p_k &= p_{bm+1} \\ &= a(bm + 1) + 1 \\ &= abm + a + 1 \\ &= b(am + 1) - b + a + 1 \end{aligned}$$

となるので, $b = a + 1$ と定めると, $p_k = b(am + 1)$ (合成数, $b = a + 1 \geq 2, am + 1 \geq 2$) となる.

(3) 任意の自然数 m' に対して $l = fm' + 1$ を満たす l について

$$\begin{aligned} q_l &= q_{fm'+1} \\ &= c(fm' + 1)^2 + d(fm' + 1) + e \\ &= cf^2m'^2 + 2cfm' + c + dfm' + d + e \\ &= f(cf^2m'^2 + 2cm' + dm' + 1) - f + c + d + e \end{aligned}$$

となるので, $f = c + d + e$ と定めると,

$$q_l = f(cf^2m'^2 + 2cm' + dm' + 1) \text{ (合成数, } f = c + d + e \geq 3, cf^2m'^2 + 2cm' + dm' + 1 \geq 5)$$

となる. よって, $l = fm' + 1 = (c + d + e)m' + 1$ を満たす自然数 l に対して q_l は合成数となるので, 題意は示された.

講評

1 [小問集合 (データの分析, 複素数と方程式)] (やや易): (1) は本学で頻出なっているデータの分析が出題されたが, かなり基礎的な内容でもありしっかりと得点したい。(2) は見掛け倒しであるので冷静に処理したい。(3) はやや計算がしにくい時間が十分にあるので, $3 - a$ という塊に注意して思い切って計算していきたい。

2 [図形と計量] (やや易): 図形と計量から図形問題であった。(1) の後半が処理できれば (2) 以降は誘導にしたがって計算していけばいいだけである。最後の相加平均・相乗平均の利用も気づきやすい。

3 [数 III 積分法] (標準～やや難): カテナリーの計算に関する出題であった。(3) の証明以外はしっかりと得点したい。なお, 証明は区分求積法を思い浮かべればよい。

4 [整数の性質] (やや易～やや難): 合成数に関する出題であった。(1) は絶対に落とせない。(2) も問題の意味をしっかりと理解すればほとんど計算はない。(3) は (2) を参考に証明すればよい。

昨年度と比べて同程度の難易度であったが, 今年度より 3 に記述および証明問題が追加されたのは目新しい。全体的には 2 の出来が合否に大きく影響するのではない。一次突破ラインは 60～65% 程度か。

本解答速報の内容に関するお問合せは

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

